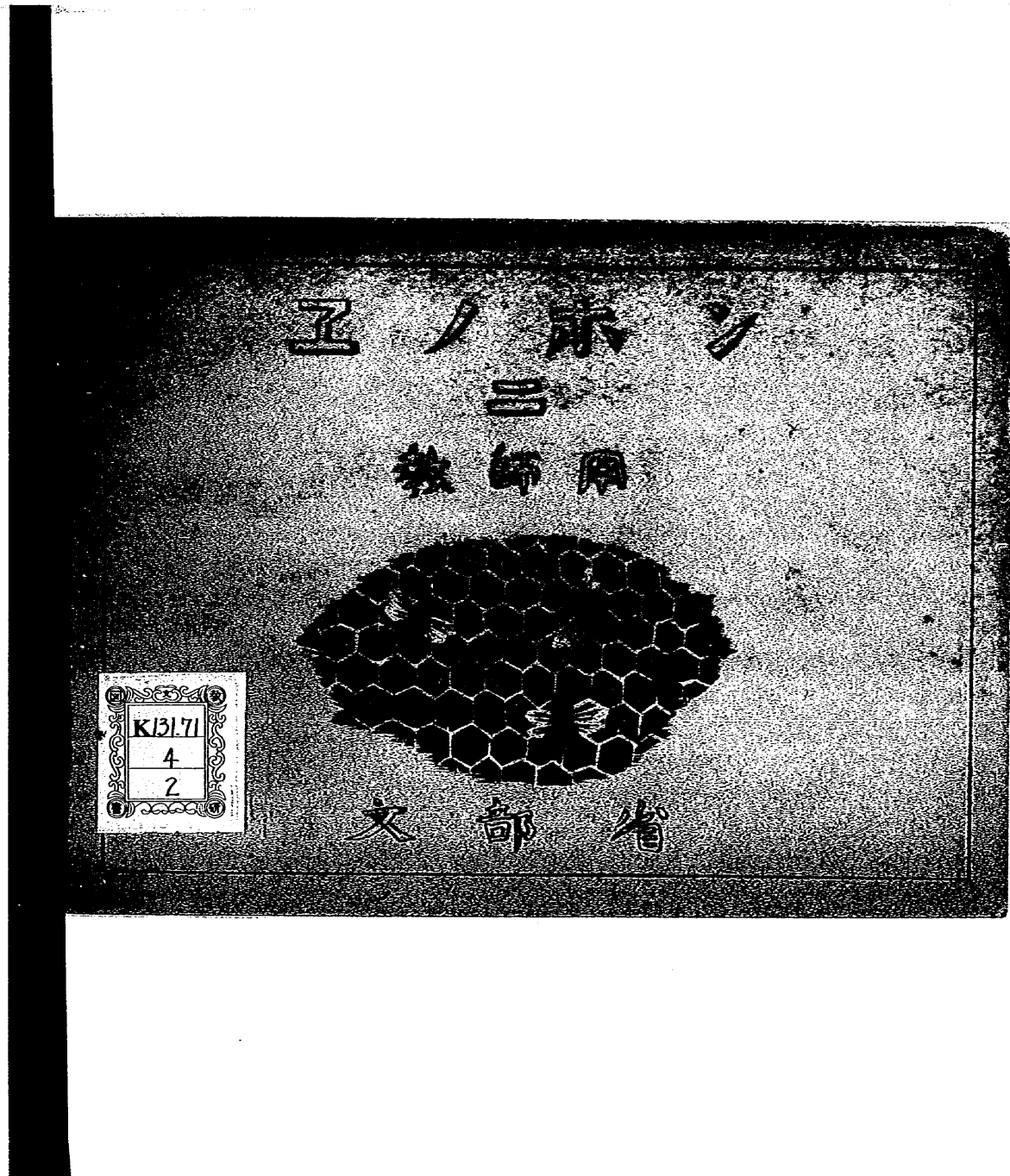


K131.71

4

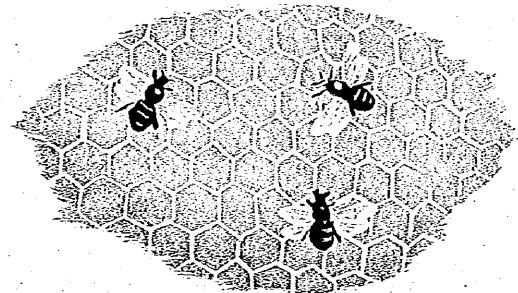
2



工ノホシ

三

教師用



文部省

K131.71  
4  
2

工ノホシ



寄附  
文部省  
共上  
69

文 部 省

## 目 録

第一 教材一覽	1
第二 教材解説	8
1 オウチノ 人	3
2 オイハヒノ チャウチン	5
3 トリ キ	7
4 ウンドウクワイ	9
5 ウンドウグ	11
6 秋ノ ケシキ	13
7 ドウブツ	15
8 ケイトウ	17
9 イロガミ入レ	19
10 ハチ ナラベル	21
11 クダモノカゴ	23
12 ゴバン目スリ	25
13 カルタ	27

14 ニブエイ	29
15 オ正月	31
16 犬ト 犬ゴヤ	33
17 キリスキモヤウ	35
18 オウチノ 人タチ	37
19 オメ ン	39
20 マメマキ	41
21 ツクエ コシカケ	43
22 オ人ギャウ	45
23 兵タイサン	47
24 ヒカウキ	49
25 ヒカウキノ モヤウ	51
26 赤イ リンゴ	53

第一 教材一覽

月別	題 名	教 法	時 限
十 月	1 オウチノ人	思想的表現	一 時 限
	2 オイハヒノチャウチン	寫生的表現	一 時 限
	3 トリキ	思想的表現	一 時 限
	4 ウンドウクワイ	思想的表現	一 時 限
	5 ウンドウグ	思想的表現	一 時 限
十 一 月	6 秋ノケシキ	寫生的表現	一 時 限
	7 ドウブツ	思想的表現	一 時 限
	8 ケイトウ	寫生的表現	一 時 限
	9 イロガミ入レ	寫模作的表現	一 時 限
	10 ハラナラベル	圖案的表現	一 時 限
	11 クダモノカゴ	寫模作的表現	一 時 限
十 二 月	同	同	同
	12 ゴバン目ヌリ	圖案的表現	一 時 限
	13 カルダ	思想的表現	二 時 限
	14 ニフエイ	思想的表現	一 時 限

一 月	15 オ 正 月	思想的表現	一 時 限
	16 犬ト 犬ゴヤウ	寫模作的表現	二 時 限
	17 キリヌキモヤウ	圖案的表現	一 時 限
	18 オウチノ人タチ	思想的表現	一 時 限
二 月	19 オ メ ン	思想的表現	二 時 限
	20 マ メ マ キ	思想的表現	一 時 限
	21 ツクエ コシカケ	思想的表現	二 時 限
三 月	22 オ 人 ギ ャ ウ	寫生的表現	一 時 限
	23 兵 タ イ ナ ン	思想的表現	一 時 限
	24 ヒ カ ウ キ	寫模作的表現	一 時 限
	25 ヒカウキノモヤウ	圖案的表現	一 時 限
	26 赤 イ リ ン ゴ	寫生的表現	一 時 限

第一 教材一覽

月別	題 名	教 法	時 限
十 月	1 オウチノ人	思想的表現	一時限
	2 オイハヒノチウチン	寫生的表現	一時限
	3 トリキ	思想的表現	二時限
	4 ウンドウクッイ	思想的表現	一時限
	5 ウンドウグ	思想的表現	一時限
十 一 月	6 秋ノグシキ	寫生的表現	一時限
	7 ドウブツ	思想的表現	一時限
	8 ケイトウ	寫生的表現	一時限
	9 イロガミ入レ	寫作的表現	一時限
	10 ハヲナラベル	寫作的表現	一時限
	11 クダモノカゴ	寫作的表現	一時限
十 二 月	同	同	同
	12 ゴバン目スリ	圖案的表現	一時限
	13 カルダ	思想的表現	二時限
	14 ニフウエイ	思想的表現	一時限

一 月	15 オ正月	思想的表現	一時限
	16 犬ト犬ゴヤ	寫作的表現	二時限
	17 キリスキモヤウ	圖案的表現	一時限
	18 オウチノ人タチ	思想的表現	一時限
二 月	19 オメン	思想的表現	二時限
	20 マメマキ	思想的表現	一時限
	21 ツクエコシカケ	思想的表現	二時限
三 月	22 オ人ギヤウ	寫生的表現	一時限
	23 兵タイサ	思想的表現	一時限
	24 ヒカウキ	寫作的表現	一時限
	25 ヒカウキノモヤウ	圖案的表現	一時限
	26 赤イリンゴ	寫生的表現	一時限

## 第二 教材解説

### 1 オウチノ人

思想的表現

時間

**要旨** 粘土でおうちの人を作らせて、眼と手の修練をなし、家族に對する親愛の情を養ふ。

本教材は教材の系統上から見ると彫塑的のもので、「カッパイトリ」と同じ系統に屬するものである。粘土で人物を作ることは、製作上の要求点を少し上げると甚だ困難なものになるが、児童の力相應の要求をするに止めて置けば、單に困難で無いばかりでなく甚だ興味もあつて、児童は喜んで製作するものである。故に本教材の如きはあまり技法的なことを要求しないで、自由にのびのびと製作させるべきである。

家族の人々は最も児童に親しく、日常見馴れてゐるものであるから、その何時もする姿態などに就いても、比較的明瞭な觀念を持つてゐるから、粘土による人物表現の最初の教材として採用したのである。そしておうちの人を作ることによつて、家族に對する親愛の情を一層深めて行くのである。

**準備 工具** 粘土板・筥

**材料** 粘土

**その他** バケツと水・濕布等

**指導 1** 教科書の本圖左は稲物をしてゐるお姉さん、右は赤ちやんをだいてゐるお母さん、参考圖の左はお祖父さんの肩をたたいてゐる妹、右は拜んでゐる兄さんを粘土で作つたものである。

これ等の作品は人物の姿態や粘土による表現の参考に資するため、又鑑賞をさせるために示したもので、児童に要求する程度を示したのではない。

2 教科書に就いて説明し鑑賞させ、人を作るには適量の粘土で胴・頭・手・足等をひねり出したり、盛り上げたり、つき足したりして概形を作り、漸次細部を指先や筥で作つてゆくことを説明し、おうちの誰を作るか、又それは立つてゐるところにするか、坐つてゐるところにするか、何か仕事をしてゐるところにするかを考へさせ、数名の児童に誰がどんな恰好をしてゐるところを作るかを話させ、想のまとまつた所で、各自任意に作らせる。製作中は机間を巡視して個別的指導をする。

**備考 1** 本教材は粘土製作の本學年に於ける最後のものであるから、特に出来た作品は適當な場所に陳列して鑑賞させたい。

2 机上の整頓・跡始末等には特に注意して指導する。

3 本教材は後にある描寫教材「オウチノヒトタチ」へ思想的に關聯をするものである。

## 2 オイハヒノ チャウチン 寫生的表現 一時限

**要旨** お祝ひの提灯を寫生させて、觀察力を養ひ、球形のものの畫き方を練習させ、寫生の興味を養ふ。

此の頃は秋祭其他お祝ひ用の提灯を見る機會の多い時であるから、此の題材を選んだのである。

本學年に於いて寫生的表現をさせる教材は、前に「センセイ」があり、本教材は第二回目のものであるが、靜物寫生としては最初のものである。此の程度の兒童は寫生と言つても、實物と比較對照し乍ら畫き進めて行くことはしないで、多くは初めに得た印象で畫き、思想的表現と相距ること遠くないものになつてしまふのであるが、それでも實物を見て畫くことに興味を持たせ、觀察力と表現力を養ふためには、なるべく早く寫生的態度を養ふ必要があるので、一年にも相當量の寫生を採用することにしたのである。尚、お祝ひ用の提灯は色も美しく形も比較的單純であるから、最初にやる靜物寫生の教材として選んだのである。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙・寫生する提灯數箇と之を吊す紐。

**指導** 1 教科書の本圖はお祝ひ用の提灯を紐に吊して寫生したものである。此の圖は提灯をやや見下した位置で畫いてあるが、兒童に畫かせる場合は少し高い所に吊して見上げた所を畫かせてよい。提灯の胴はクレヨンを横に使つて、横の骨や撥を表現してあるが、兒童には、只赤く塗らせる程度にさせてもよい。

2 教科書の参考圖左は鼓阜提灯が少し風に揺れてゐるところ、中上は三箇の紙風船、右下はボールを畫いたもので、共に球形に屬するものの表現の例として示したのである。

3 教科書を見せ、提灯を教室内の適當な場所數箇所に一箇づつ又は二箇三箇づつ吊し、底・胴・口等の形や色をよく觀察させ、丸味を出すには外圍の形や紙の織目・骨等に注意して畫くことを知らせ、寫生する提灯の形や數によつて縦繪にするか横繪にするか、又紙の如何なる位置に如何なる大きさに畫いたらよいかを考へさせてから寫生させる。

4 寫生する提灯は一箇だけでもよく、又數箇を畫かせてもよい。

**備考** 1 寫生中は教科書を見ないで、實物をよく見て畫くやうにさせる。

2 教科書の作例が横繪であるから何の考へもなく横繪にすると云ふやうなことはないやうにする。

3 寫生する提灯は必ずしも教科書に示す如きもので無くてもよい。併し色の美しい形の單純なものを選び複雑な模様のあるものなどは避くべきである。

4 準備の項にある鉛筆は輪廓をとつたり、クレヨンで畫いた上に細部の畫きおこしをするためのものであるが、鉛筆の使用は、どうかすると表現が小さくいぢけたものになることもあるから、之は必ずしも使用しなくてもよい。輪廓をとるに鉛筆を用ひない場合は、鼠等の目立たない色のクレヨンを用ひさせる。この注意は他の多くの描寫教材にも共通の事項である。



要 旨 きびがらで鳥居を作らせて、立体構成の初歩的な練習をさせる。

本教材は前教材同様秋祭りに因んで採用したものである。鳥居は神社の門とも稱すべきもので、神域と外界とを劃する森嚴なものとして扱はれてゐると同時に、児童にも親しみあるものである。

きびがらを以つてする工作には、之を棒状のまま用ひる場合と、壓縮して種々變形して用ひる場合とある。教科書に示した作例は棒状のまま用ひてあるが、笠木や貫などを作る場合は、必要に応じて壓縮し變形して用ひさせてよい。

本教材は教科書にある作例を模倣させるのではなく、自分達の氏神様の鳥居とか、何處の神社の鳥居とか、児童の實際に見てゐる親しみある鳥居を作らせるのである。尙、鳥居を立てる方法に就いても種々工夫させる。

準 備 工 具 唐 鋏

材 料 きびがら・ひご・糊

其 他 エノホン掛圖

指 導 1 教科書の本圖右上の寫眞は靖國神社の一の鳥居で青銅製である。左上は笠木・柱・貫・臺の長さの割合を示したもので、右下は各材料を組立てる順序を示したもので、数字の順に組立てるのである。

此の組立順序は木材を用ひる場合などにも大體共通な基本工作法とも稱すべきものである。参考圖はきびがらとひとこで作つた簡易なもの作例を示したものである。

2 エノホン掛圖はきびがらの切方、簡易な接合法等を示したものである。

3 教科書の本圖及びエノホン掛圖によつてきびがらの切方、接合の方法、鳥居の作り方の順序等を知らせ、各自この神社の鳥居を作るかを考へさせて任意に作らせる。

備 考 1 きびがらを切るには種々の方法があるが、此の程度の児童には、エノホン掛圖に示す如く切らうと思ふところを鋏で軽くはさみ、きびがらを一廻轉して表面に切筋をつけ、その筋のところから折るやうにして切らせる。

2 きびがらの接合は、きびがらの皮又はひごを以つてする。接合部や柄になるきびがらの皮やひごに糊をつけると丈夫になる。きびがらの皮やひごは喰切又は鋏で切る。切口は斜にする方がさし易い。

3 きびがらの皮で、手を傷つけないやう注意する。

4 教科書に示した作例は、靖國神社の鳥居に大體は似てゐるが、細かな點になるといろいろちがつてゐる。靖國神社の鳥居の貫の断面は矩形であるが作例は圓である。靖國神社の鳥居には臺はないが作例には立てる爲に臺をつけてある。其の他色などもちがふ。鳥居の様式には、笠木の直線式のもの曲線式のもの、断面の圓形のもの多角形のもの、柱の垂直なものに轉びの有るもの、其の他礎石の有無、額束の有無、鳥木の有無等種々のものがある。

#### 4 ウンドウクワイ 思想的表現 一時限

**要旨** 運動會で見たことや経験したことを畫かせて、動的な人物の表現練習をさせる。

明日は運動會だと言へば、子供等は夜も寝られぬ位喜ぶものであり、又運動會の晩にはその日の話で夕食後の一時をにぎはすものである。それ程運動會は兒童にとつて強い魅力をもつものである。従つて運動會を畫いた兒童畫には優秀なものが少くない。丁度此の頃は秋の好季節で何處の學校でも運動會が催されるであらうから、運動會の事前のことを扱つた「ヨミカタ」の「アシタハウンドウクワイ」とも關聯して、運動會で見聞し経験したことを畫かせて、その喜びを再現させるのである。

運動會を畫けば、多くの場合兒童を主にした動的な集團的な人物の描寫が中心になる。而してこの種の教材としては前に兒童の遊戯を畫かせた「ブランコ」がある。故に本教材はそれと關聯し、そこで得た描寫經驗を生かすやう指導しなければならない。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫川紙

**指導** 1 教科書の本圖は運動會で競走をしてゐる所を畫いたものである。三人の兒童の關係的表現や足の運び、手の振り方等の表現に注意させる。参考圖は決勝點にはいつた所、出發する所、スプーンレース、一等の旗をもらつた所等運動會のときの種々の姿態を示したものである。之は集團的表現の一部分づつを示したものである。

2 本教材の指導をするには、運動會で見たり経験したりしたことを問答し、如何なる場面を畫くかを決定させ、教科書を見せてその表現に就いて説明し、構想のまとまつたところで畫かせる。

3 描寫中は机間を巡視して、活動してゐる人物の表現や人物と人物との關係的表現に注意し、兒童がそれを表現しようとして、しかも表現方法にまよつてゐるやうな場合には、個別的に適切な指導をする。

4 活動してゐる人物を表現させるには、豫めその活動の有様をよく觀察させ記憶させておいて畫かせるやうにするとよい。

**備考** 1 本教材は運動會の事後に課さなければならない。従つてその學校の運動會開催の時期に合せて、教材の繰替へをしなければならないやうなことが起るであらう。

2 この種の教材に於いては兒童は往々紙をまはして畫くことがあるから、まはさないで畫くやう注意する。

3 運動會の様相も時勢と共に變化して、お祭騒ぎ的のものでなくなつて、練成的のものになつて來たのであるから、兒童に畫かせる場合も此の點に注意し、なるべく練成的な運動精神のあふれてゐる場面を畫くやう獎勵するがよい。

4 出來た作品は機會ある毎に適當な場所に陳列し、反省・鑑賞の資に供するがよい。

## 5 ウンドウダ

### 思想的表現

### 一時限

**要旨** きびがらで運動の道具を作らせて、立体構成の初歩的な練習をさせる。

本教材は思想的關聯に於いて前教材「ウンドウクワイ」とつながりを有し、構成上からは前々教材「トリキ」と關聯を有するものである。

運動具の中で、きびがらで表現するに適したものは、鐵棒・シーソー・ぶらんこ・遊動圓木・固定圓木・ハードル・平行棒其の他である。これ等の中から兒童に任意なものを選ばせて作らせるのである。同じ名稱の運動具でも形状構造に種々なものがあり、又表現方法の工夫如何によつても種々趣の變つたものが出来るのであるから、十分兒童に自發活動をさせ、創意を現はすやうに指導する。

運動具の中には表現の極めて簡單なものから、やや進んだものまで色々な程度のものであるが、此所ではあまりやかましく程度を論じないで、兒童の作り度いと言ふものを作らせて見るがよい。併しあまり程度のかげはなれたものは不適當なこと勿論である。

本教材では運動具を作らせることが主目的であるから、人などは只興味を添へるために作らせるので軽い意味で扱ふのである。

本教材ではきびがらを主とし、紙・糸等を補助材料として用ひてよい。

**準備 工具** 唐鈹・噴切・ものさし

**材料** きびがら・ひご・紙・糸・糊等

**指導** 1 教科書の本圖左は鐵棒に人がぶらさがつてゐるところ、右はシーソーに子供が乗つてゐるところをきびがらで作つたもの、參考圖の左はシーソー、右は遊動圓木、上は物干棒に着物の乾してゐるところをきびがらで作つたものである。物干は運動具では無いが、作り方が鐵棒などに似てゐるから、參考のために示したのである。尚、乾してゐる着物は色紙で作つてゐる。

2 教科書を見せ、きびがらで作るに適した運動具にはどんなものがあるかを考へさせ、製作にはきびがらやひごの外に紙・糸其の他の補助材料を用ひてもよいこと、よく工夫して色々なものが作れるべきこと等の注意を與へ、作り方の順序方法を考へさせてから任意に作らせる。

**備考** 1 きびがらは組立の順序が悪いと、接合部の孔がゆるくなつて丈夫に出来ないから、此の點は個別的によく指導しなければならない。

2 本教材は出来上りの手際よりも、着想とか、表現意態の現はれとかに重點をおいて指導する。

## 6 秋ノ ケシキ

### 寫生的表現 一時限

**要旨** 秋の景色を寫生させて、自然の美しさを味はせ、風景寫生の興味を起させる。

春夏秋冬四時の景色にはそれぞれの趣があり美しさがあるが、特に秋は空気も澄み物の色も美しく、戸外の寫生には好適な季節でもあるので、最初の戸外寫生として秋の景色を選んだのである。

景色の寫生は靜物寫生などに比し、初めの中は一般に困難であるかのやうに考へられるが、單なる景色の如きものは思想的表現をさせるよりも、實際の景色を見ながら畫かせる方が、生き生きとした表現となり、指導も容易である場合が少くない。

此の程度の兒童の表現は寫生と言つても、多分に寫意的思想的のものとなるのであるから、客觀的寫實的に表現することを要求するのは無理である。併し寫生と言ふ以上は、あの山此の木を表現したのであると言ふ意味は明瞭に現はされておなければならない。どうかすると兒童等は實際の景色を見て畫いても、眼前にある景色とは関係のないものを畫くこともあるが、かかる態度は是正して、實物を見て畫く寫生の意味を知らせ、寫生への興味を起させることに力めなければならない。

本教材は理數科「自然の觀察」と關聯して指導し、又寫生の態度を養ひ寫生の意味を知らせる上からは、七月教材の「センセイ」とも關聯を保つて指導する。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫川紙・畫板・畫紙・腰掛等

**指導 1** 教科書の本圖は稻刈りを主題とした秋の景色を畫いたもので、前景の黄熟した稻、刈り取られた田、稻刈りをしてゐる人物、道を歩いて來る子供等の配置や表現、遠方の紅葉した樹木を交へた常緑樹の森等の表現に注意して見させる。

2 參考圖は秋の風物としてのぶどう・柿・菊等を畫いたものである。廣い景色を寫生させることの出来ない學校ではかかるものを寫生させてもよい。

3 本教材の指導をするには、教科書を見せて本圖參考圖の説明をなし、寫生の注意を與へ、用具材料を持つて寫生する場所に兒童を引率し、美しく色づいた樹木、色々な作物やみのつた果物、晴れ渡つた空等の美しさを味はせ、各自寫生する場所を定めさせて畫かせる。

4 何處を畫くかに迷ふ兒童が多いから、個別指導に留意する。

**備考 1** 寫生は校庭、學校の近所等あまり往復に時間のかからない所でさせる。

2 寫生する場所は豫め調査をして置き、なるべく兒童を分散させず同じ場所から見た景色を畫かせると指導上便利である。

3 畫板は合板・厚いボール紙等で作つたものでよく、畫川紙は畫紙で留め風で飛ばされないやうにする。腰掛は三脚其他戸外寫生用のものがあればそれを用ひるが都合によつては立つて畫かせてもよい。

4 最初の戸外寫生であるから、戸外寫生用具の取扱ひ、學習態度に就いて十分の注意をする。

5 寫生に就いては特に軍事取締規則に注意せねばならぬ。

## 7 ドウブツ

### 思想的表現

### 一 時 限

**要 旨** きびがらの動物を作らせて、工夫考案の力を養ひ、立體構成の初歩的な練習をさせる。

本教材の題目は動物となつてゐるが、これはどんな動物でもよいと言ふのではなく、動物の中の獸類を作らせるのである。

きびがらを主材料とする教材として「トソキ」「ウンドウグ」の兩教材があつたが、これ等は何れも對象が直線的ながつちりしたものである。本教材は出来上りの結果は、きびがらと言ふ材料の性質上直線的のものとはなるが、對象は柔軟性のある曲線的のものである。そこに本教材が前二教材と異なる意味がある。

きびがらで獸類の如きものを寫實的に表現することは困難で、象徴的な表現のものとならざるを得ないのであるが、ここにきびがらの持つ面白さがあり、これが又兒童性に合つてゐる所以でもある。太い馬の頸を一本の細いひこで表現しても少しも不自然さを感じない。逞しい馬の四肢を細いひこで表現しても少しも弱々しさを感じない。兒童等も一本のひこで太い頸も逞しい四肢も現はし盡したと思つてゐる。これがきびがらの持つ一特色である。

**準 備 工 具** 唐鈔・喰切・ものさし

**材 料** きびがら・ひこ・畫用紙・糊

**指 導 1** 教科書本圖の上の段の左は馬を作る材料、右は馬の出来上り、下の段の左は犬、右はそれを作る材料である。馬の鬘は、きびがらの皮を指先でしごいて曲げて作つたもので、犬と馬の耳は、きびがらの皮であけた孔に、小さく三角形に切つた畫用紙に糊をつけてさし込んで作つたものである。

2 参考圖の上左と上中は馬、上右はきりん、下左は二匹の犬、下右は兎である。きりんの耳は細軸のマツモの軸で作つたのである。

3 教科書の本圖参考圖を見せていろいろな獸の作り方を説明し、教科書にある以外の獸で、きびがらで作るに適したものを考へさせ、又教科書にあるものでもその違つた作り方に就いての暗示を與へたりして、各自の工夫によつて好きな獸を作らせる。

**備 考 1** 本教材は製作技法のことよりも、着想や工夫に重きをおいて指導する。

2 教科書の作例以外の獸で、きびがらで作つて面白いと思はれるものには、象・虎・猫・鼠・豚・牛等いろいろある。

3 新しく工夫して作ることは困難を感じる兒童が少くないと思ふが、さう言ふ兒童には教科書の作例の尾だけ、頭だけ、肢だけを變へる等部分的改作をやらせて、工夫創造力及び發表力を養ふ。

4 なるべく自分で工夫して作らせるために、製作中は教科書を見ないで作らせることも一方法である。

## 8 ケイトウ 寫生的表現 一時限

**要旨** 秋の草花を寫生させて、植物の持つ形と色の美しさを味はせ、寫生の興味を起させる。

本教材の題目は「ケイトウ」となつてゐるが、これは必ずしも鶏頭を畫かせようと言ふのではなく、此の頃ある適當な草花を寫生させればよいのである。併し鶏頭は色も形もよく、且、畫きやすくもあるから、よい鶏頭が得られるならば、それを寫生させるがよい。

草花を表現する教材として、前に色紙をもちつて思想的表現をさせた「キレイナハナ」がある。又寫生的表現をさせた教材として「センセイ」・「オイハヒノチャウチン」・「秋ノケンキ」等がある。これ等の教材とは、題材の扱ひ方や表現態度等の點で密接な關聯を保つて指導する。

本教材は教室内數箇所に寫生する花を置き、それを寫生させるもよく、又學校園などに適當な花があれば、そこに行つて寫生させてもよい。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙・寫生する花・エノホン掛圖・室内寫生の場合はモデル臺、戶外寫生の場合は戶外寫生用具

**指導** 1 教科書の本圖は學校園に咲いてゐる鶏頭を寫したものである。鶏頭には種々の種類があつて花穂・葉等の形や色のいろいろなものがあるが、教科書に示したものは矮性のものである。参考圖はコスモスである。コスモスの花には種々の色のものがあり、葉の形なども面白く比較的畫き易いものである。

2 エノホン掛圖に示したものは、コスモス・菊・桔梗の着色寫眞である。此の圖によつて自然に咲いてゐる花の美しさや生態に就いて知らせる。

3 室内で寫生させる場合には、花瓶にさした花か鉢植の花を兒童のよく見える場所數箇所に置き、花のつき方、葉の出方等を觀察させ、教科書を見せて畫面に對する花や葉の大きさ・位置等に就いて説明し、構圖を考へて順序よく寫生させる。

4 戶外で寫生させる場合には、豫め教室内で寫生上の注意や、教科書の説明をしてから、寫生する場所に行き、各自寫生する花や自分の位置を定めてから畫かせる。

**備考** 1 初等科一年位では、室内寫生は普通教室でやらせてよいが、物を見る距離・方向等には注意しなければならない。兒童はまだ十分寫生する力はないのだからとて、かかる點を粗略に考へることは、觀察の修練をさせる上から見てよくない。

2 兒童は數輪の花を畫くやうな場合に構圖を考へないで最初に畫く花を紙の中央上部に畫き、それからあとの花や葉を次々に畫き足して行くために、大變かたよつた構圖にすることが少くない。故に最初に筆を下す前に大體の見當をつけさせて畫かせるがよい。

2 寫生させる花はあまり小さいものや大き過ぎるものはよくない。大體實物大か實物より少し小さく畫いて丁度よい位の大きさのものがよい。

## 9 イロガミ入れ

模作的表現・思想的表現

一時限

**要旨** 色紙を入れる袋を作らせて、眼と手の修練をなし、併せて装飾の能と整理の習慣とを養ふ。

色紙を使って種々の工作をする教材は、これ迄にも数回あり、今後もしばしば出て来るのであるが、その度に大小の色紙片が出来るし、又新しい色紙を持たせることもあらう。さう言ふ色紙を入れて保存し、必要に応じてそれを使はせることは、物を大切に、如何に小さな紙片でもこれを整理保存して置くのは使ひ道のあることを知らせる上に必要なことである。本教材はかかる目的を達するために作らせるのである。

本教材は目分量で作らせる部分が多いが、それによつて眼と手との修練をさせ、又細部や装飾は児童各自の工夫で作らせるのであるから、それによつて装飾の能を養ふのである。

本教材は袋の作り方は模作的表現をさせ、細部の形や装飾を施すところは思想的表現によるのである。

**準備 工具** 唐鋏・ものさし

**材料** 羅紗紙(大きさ 23cm × 32cm 位、紙の都合で多少の大小があつてもよい) 又はその他の中厚紙・色紙・糊・糊下紙

**その他** 示範用紙・出来上り標本・色彩指導用掛図等

**指導 1** 教科書の本圖は二箇の色紙入れの作例を示したもので、右のものは袋の口を曲線状に切り、

蓋は變化をつけるために一方の隅だけ丸味をつけ、山と太陽とを色紙で表現して装飾としたもの、右は蓋の兩隅を斜に切り、蓋の中央につけた赤い紙片が前面の緑色の細長い紙片の中に挿し込めるやうにし、隅に小さな模様をつけて装飾にしたものである。

2 参考圖の右は二箇の作例を示したもので、左は展開圖を示したものである。

3 色紙入れの袋を作るには、幅約 23cm・長さ約 32cm の、適当な色の羅紗紙又は其の中厚紙を、蓋の部分を残して二つに折り、次に蓋の部分を折返して折目をはつきりつける。次に一旦開いて糊代の部分を作るために、左右を同じ幅に目分量で折返して、折目をはつきりつける。再び開いて不用部分を鋏で切り参考圖に示す展開圖の如き形にする。此の時細部の形は各自の意匠によつて任意に作る。次に糊代に糊をつけて貼合せ、色紙で各自の好む装飾を施して仕上げる。

**備考 1** 配色に就いては色彩指導用掛圖「イロゾ3」を利用して指導する。

2 目分量即ち目測によつて製作することは、正確なものを作る場合には避くべきではあるが漸次學年の進むにつれ各種の計器を用ひて精密正確なものを製作する場合でも、結局は訓練された眼の力に依たなければならないのであるから、さう言ふ素地を作る前提として、本教材の如き製作によつて目測の訓練をすることは有意義なことである。

## 10 ハナナラベル 図案的表現 一時限

**要旨** 美しく色づいた葉の實物を並べて模様を作らせ、圖案の趣味を養ふ。

植物の葉にはそれ自身形の整つた図案的の形體をしたものが少くない。又色づいた葉は黄紅様々な美しい色彩をしたものも少くない。此の天與の資料をそのまま使ひ、之を並べて模様を作らせ、圖案上重要な資料の選擇・排列等の練習をさせ、遊戯的な仕事を通して圖案の趣味を養ふのである。

直接に物を並べることによつて圖案の初歩的な練習をさせる教材として「ハナナラベル」・「サンカクシカクナラベ」があり、本教材は第三回日の教材である。此の三者はそれぞれ特色があるが、初めは興味ある材料からはいり、漸次描寫による圖案表現に接近したものを採つて來たのである。本教材は「ヨミカタ」の「オチバト」「自然の觀察」の「もみち」と連絡をとつて指導する。

**準備** 葉・葉を並べる臺紙・糊・糊下紙

**指導** 1 教科書の本圖及び参考圖は、もみちの葉といふの葉とを資料として、二方連続と四方連続の模様風に排列したものを示したのである。

2 植物の葉は同じ種類のものでも、形や大きさがいろいろちがつてゐるのが普通であるけれども、教科書に示した作例でも明かな如く、なるべく形や大きさ・色などの似寄つたものを選んで模様を構成する方が、整つたものが出来る。

3 臺紙の色相や明度が、模様の出来ばえに大きな関係のあることを、同一の資料を用ひ、同一の排列を、明度や色相の異なつた臺紙の上に並べて見せて會得させる。

4 同じ資料を用ひても、並べ方を上向き、横向き、斜向き等に變へると、大變ちがつた模様になることを、具體例に就いて知らせる。

5 本教材の指導をするには、教科書の本圖参考圖の説明をなし、模様作成上の注意、葉を採集する上の注意等と與へ、臺紙を持つて戸外に出て葉を採集させ、その場でいろいろ並べて見させて、排列に就いて指導をする。

6 必要な葉だけ持つて教室に歸り、あとで整理して臺紙に糊で貼らせる。

**備考** 1 本教材の指導は、自然の觀察等の時に適当な葉を採集させ、二三日間紙の間に入れておし葉にしたものを用ひ、指導は總て教室内でやらせるのも一方法である。

2 葉は採集してすぐのものよりも、二三日おして置いたものの方が扱ひ易い。ことに糊で貼りつける場合は然りである。葉の採集上の注意を十分に與へないと、むやみに澤山採つて來たり、不適當なものばかり集めて來たりして工合の悪いことが少くない。

3 葉の大きさも適度のものを選ばなければならない。尚、葉は色づいた葉ばかりでなく、常緑樹の葉を交へることも變化がついてよい。



## 11 クダモノカゴ 模作的表現・思想的表現 二 時 限

**要 旨** 方眼紙を用ひて果物籠を作らせ、立體構成の初歩的な修練をさせる。

正しく展開圖を畫き、正しく切斷し、正しく立體に構成する初歩教材として、比較的形も簡單であり、構成も容易な本教材を選んだのである。

本教材は後に出て来る、本教材と類似した構成法による「犬ト犬ゴヤ」「ツクエコシカケ」等に發展して行き、漸次學年の進むにつれて構成の方法を進め、遂には厚紙・木材・金屬等を材料とする立體構成に迄發展する第一歩として意味を有するものである。

方眼紙を用ひて展開圖を畫くことは、一種の簡便法ではあるが、第一二學年程度の兒童には、入り易く、之を用ひることによつて工作的價值の高い立體構成の仕事に比較的早くからはいることが出来る。

本教材に於いては、展開圖と出来上つた立體との關係を十分に理會させ、讀圖の初歩的指導もする。

本教材は、展開圖を畫き、之を切斷して立體に組立てる迄の仕事は模作的表現をさせ、表面に籠目を畫くこと、中に入れる果物を作ること等は思想的表現をさせる。

**準 備 工 具** 唐鈔・ものさし

**材 料** 1cm 目の中厚紙の方眼紙・クレヨン・鉛筆・糊・糊下紙

**其の他** エノホン掛圖・半製品及び出来上り標本

**指 導 1** 教科書の本圖は1cm 目の方眼紙に畫いた展開圖と、組立てて出来上つた果物籠とを示したものである。籠目はわうど色のクレヨンを塗つた上に鉛筆で畫いたもので、これは籠目の現はし方の一例として示したものである。尚、低學年では展開圖のことを「ヒライツツ」と言ふことにした。

2 参考圖は別の形の果物籠の展開圖と出来上り、及び果物の作り方の例を示したものである。籠は立體に作り果物は平面的に作ることは、しつくりしない所もあるが、此の程度の兒童には已むを得ない。尚、参考圖の方の果物籠は構成がやや複雑であるから、之は教師が作つて見せ、少しの變化でも出来上りが大變ちがつて来ることを知らせる程度に止めて置く。

3 エノホン掛圖は「クダモノカゴ」の作り方を示したものであるが、方眼紙による展開圖によつて作るのであるからその意味で説明する。

4 展開圖を畫くには、底になる部分の四隅の點を方眼の日で數へて決定し、ものさしを定木として點と點とを結ぶ線を畫き、次に四方の側面を畫き、最後に糊代をつける。提手の部分は離して畫いてもよい。

5 展開圖が出来たら切斷する部分と折る部分とにそれぞれ目印をつけさせ、作圖を一應點檢してから切斷・折曲げをさせ、任意に籠目を畫くか色紙で裝飾をつけるかしてから、糊をつけて組立てる。

6 任意の果物を参考圖に示す工作法に準じて作らせ、籠の中に入れる。

**備 考 1** クレヨンを塗つた上には糊が付きにくいから、糊代の部分には色をつけないやう注意する。

2 糊づけした部分は、糊の乾くまで物干状の如きもので挟んで置くと、はなれなくてやり易い。

要旨 碁盤目を塗つて模様を畫かせ、模様構成と配色の練習とをさせる。

本學年に於ける圖案的表現の教材として、之迄に物を並べることによつて、排列に就いての初歩的な指導をなし、又配色に就いては「サンカクシカクナラベ」・「イロガミ入レ」等で初歩的な指導をしたのであるが、本教材ではクレヨンを使つて配色の練習をさせ、又碁盤目を塗ることによつて模様構成の學習を遊戯的にさせるのである。

かかる抽象的な圖案構成は考へやうによつては随分むづかしいことのやうにも思へるが、觀點を變へて見れば、二色のクレヨンで碁盤目を交互に塗つて行けば市松模様が出來、碁盤目の二つづつ交互に塗つて行けば又別の模様が出來、それ等の色を變へれば又感じの變つたものになると言ふやうに、極めてやさしく取扱ふことも出來て、豫想外の好結果を見ることもあり、甚だ興味あるものである。

本教材に於ける配色は、大體二色配合による。但し地色を生かして使へば三色、更に或色に濃淡をつければ四色になる。

準備 方眼紙・クレヨン・鉛筆

指導 1 教科書の本圖は二種の碁盤目塗りの作例を示したもので、使用した色は共に二色であるが、左方のものは地色の白を加へれば三色配合、右方のものは地色の白と、橙の濃淡を二色と見れば四色配

合となる譯である。

2 参考圖は使用色は共に二色で、地色を加へれば三色配合である。左方のものは方眼の線の不用部分を消してあり、右方のものは本圖左方のものと同意匠であるが向きを變へてある。色を變へたり向きを變へたりするだけでも感じのちがつたものになる例として示したのである。

3 碁盤目塗りの模様を畫くには、1.5cm 乃至 2.0cm 位の方眼紙を用ひる。都合により 1cm 目の方眼紙の目をつおきに飛ばして使つてもよい。

4 配色は初め任意の二色を自由に選んで畫かせ、次に色彩指導用掛圖「イロツヅ」に示す配色表に似た色のクレヨンで畫かせる。模様の構成は何れも任意に考へて畫かせる。

備考 1 模様の構成は任意に工夫して畫かせるのであるが、あまり無法則なものにしないで、同じ形が繰返されるやうに指導する。

2 模様の構成は四方連続模様風のものの方がまとまり易いが、教科書本圖右の作例の如く單獨模様風にするのもよい。

3 方眼紙はクレヨンののりのよい紙質のものを選ばなければならない。

4 出來た作品は適當の場所に陳列して、反省鑑賞の資に供する。

**要旨** 五十音かるたを共同で作らせて、繪と文章との關係的表現の練習をさせ、共同の精神を養ふ。

子供の遊具として「いろはがるた」は古くから行はれて居り、これによつて遊戯を通して文字を覚えたり、教訓を得たりして來たものである。此の種のかるたは、大人の作つたものを兒童に與へることも意味あることではあるが、兒童自身に文章を撰ばせ、繪を畫かせ、それを用ひて遊ばせることは、一層有意義である。只兒童はまだいろはを學ばないから、「ヨミカタ」にある五十音圖によるかるたを作らせることにしたのである。但し五十音圖には同形同音の文字があるから、さう言ふのは一つだけ作らせればよい。

尙、本教材では同形同大の紙を共同して多數作らせること、それぞれのかるたを分擔して作らせ、しかも其の間に一つの統一を保たせること等によつて共同作の訓練をもさせるのである。

**準備** 工具 唐鈔・ものさし

材料 クロヨン・鉛筆・畫用紙

其他 五十音圖・ヨイコドモ上・ヨミカタ一、二

**指導** 1・教科書の本圖參考圖は五十音かるたの數例を示したもので、これによつて繪と文章との關係、かるたの作り方等に就いて知らせる。參考圖も原畫は彩色のあるものである。

2 かるたの大きさは兒童に考へさせて作らせるのであるが、大きくすれば繪や文字の表現には都合がよいが、實際使用上には不便であり、小さくすれば繪や文字の表現がしにくくなる。大體の大きさは幅6cm内外、長さ8cm内外位が適當である。

3 用紙は白い畫用紙を用ひ、ものさしを使つて定めた寸法に切らせるもよく、中厚紙の方眼紙を用ひてもよい。方眼紙を用ひる場合には、方眼の引いてない方の面に繪や文章を表現させる。

4 文章は、五十音圖により、兒童の考へついた所から言はせて板書し、それを整理して定める。兒童によい文章の出來ない場合は一部教師が考へてやることもよい。

5 文章が出來たら、一兒童が一枚乃至二枚位畫くやうに分擔を定めて、所定の用紙に畫かせる。

6 出來上つたかるたを用ひて、適當の時に遊ばせる。

**備考** 1 文章は「ヨミカタ」「ヨイコドモ」等に書かれてある所からとるもよく、兒童の日常見聞してゐることを基にして作つてもよい。尙、文章は豫告して考へて來させることもよい。

2 參考のため文章例を示せば次の如きものがある。「アトカラ アトカラ フツケル書」「イチヤウノハ ラ ヒロヒマセウ」「ウマノ オヤコル ナカヨシ コヨシ」「キモノヲ ヌツデル オカアサン」「クワガ サルニ トビツイタ」「コトシノ オコメガ デキマシタ」「モモカラ ウマレタ モモトラウ」「シロクテ カハイイ ウサギノコ」「チビナイ シラホ 背イ海」「ハレタ 秋ノ日 イネカリニ」

**要 旨** 入營の情景を畫かせて、思想發表の練習をさせ、國民的精神を養ふ。

入營の情況は時と所により一様では無いが、その形式の如何を問はずそれが國民的感激の一對象であることに變りはない。此の感激の一場面を描寫させることに依つて、思想發表の練習をさせ、國民精神の涵養に資するのが本教材の目的である。

入營の情景を畫くには人物の描寫が中心となるものであるから「ウンドウクツイ」・「ミツアンピ」其の他人物描寫が主となつた教材と關聯のあること勿論である。

**準 備** クレヨン・鉛筆・畫用紙

**指 導** 1 教科書の本圖は入營を祝する意味の旗を立て、青年團や町會の人々が先頭に立つて、隣近所の大人子供に見送られて、勇ましく赤標を掛けて入營する途中の情景を畫いたものである。

2 參考圖は大勢の人々に見送られて汽車に乗つて入營のために出發する情景を畫いたものである。

3 教科書の作例に就いて説明し、この作例と比較對照して、兒童の見た入營する人の服裝、見送りの人の様子、入營する人の家の前や入營の途中の情景等を想ひ起させて、任意に畫かせる。

4 本教材は入營する人が中心となり、他の人物が之と關係的に表現され、畫面全體として入營する人を送る氣分の出ることが重要であるから、この點に十分注意して指導する。それが爲には人物の姿勢表

情に注意し、且、構圖につき十分な工夫をさせなければならぬ。

**備 考** 1 入營はその土地にその事實があつても、兒童等はうつかりして見て居るものであるから、その觀念は頗る漠然としたものである。それ故教師は十分注意してゐて兒童に對しその觀念を明かにするやう指導しなければならない。

2 本教材は入營に代ふるに除隊を以つてしてもよい。

3 此の種教材の取扱ひには防諜上の留意を怠つてはならない。防諜上入營の見送り等を禁止されてゐる場合等には、便宜本教材の精神を汲んだ他の教材に替へてもよい。例へば「慰問袋作り」・「慰問の繪と文」等の如き題材のものと替へるが如きである。

## 15 才正月

思想的表現 一時限

**要旨** 児童生活を通して見た正月の情景を畫かせて、思想發表の練習をさせる。

正月は児童の最も喜ぶものの一つで、古來正月をうたつた童謡の類が各地に少からずあるのを見ても、それが如何に児童生活に大きな關係を持つてゐるかが解る。ここに本教材を採つた意義がある。

児童生活を通して見た正月の行事や遊戯は、地方地方によつてそれぞれ趣を異にしてゐることも少なくないが、四方拜の式・神詣で・昔初め・凧あげ・はねつき・かるたとり・すごろく遊び・とんど・萬歳・獅子舞ひ・猿まはし等は何れも児童の生活に關係の深いものである。

本教材では以上の如き児童の生活を通して見た正月の行事や遊戯の中から、児童各自の好む題材を選んで描寫させ、思想發表の練習をさせるのである。

本教材は正月をまつ子供の氣持をうたつた「ヨミカタ」・「ウタノホン」等の教材や正月の心得を示した「ヨイヨドモ」の教材と關聯して正月に對する統合的な扱ひをするのである。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙

**指導** 1 教科書の本圖はお正月に凧あげをしてゐるところを畫いたものである。前方の子供等が凧をあげてゐるところは高臺になつて居り、道路に面した家々には國旗があげてある。

2 參考圖右上ははねつき、左下は昔初めの情景を畫いたもので、左上は凧、右下は羽子板とはねと

を示したものである。

3 本教材の指導をするには、正月には學校でどんなことが行はれたか、家庭ではどういふことをしたか、何をして遊んだか、何を見たか等に就いて問答し、その情景を想ひ出させ、教科書の本圖參考圖を見せ、描寫の場面・構圖・畫く順序等を考へさせてから畫かせる。

**備考** 1 正月の行事や遊戯は地方地方によつて異なることが多いのであるから、其の地方に即した最も地方色ある題材を選んで畫かせなければならない。凧あげ・はねつきの如きは正月の代表的遊戯の如く言はれてゐるけれども、地方によつては凧は正月にはあげないで五六月頃とか八月頃とかにあげるところもあり、はねつきの如きも必ずしも全國に行はれてゐるとは限らない。若し正月に凧あげやはねつきを行はない地方に於いてそれを畫かせるやうなことがあつては、意味のないことになる。

2 本教材は想に重きをおいて指導する。

3 凧は「いか」・「いかのぼり」・「はた」等と言つてゐる地方もある。凧を畫く場合には糸をあまり太く畫いたり、糸が上に反つたやうに曲げたり、凧のあがつてゐる方向がまちまちになつたりしないやうに注意する。

## 16 犬ト 犬ゴヤ 模作的表現・思想的表現 二 時 限

**要 旨** 方眼紙を用ひて犬小屋を作らせ、立體構成の初歩的練習をさせ、更にきびがらで犬を作らせて製作の興味を起させる。

方眼紙を用ひて立體を構成させる教材には前に「クダモノカゴ」がある。本教材の犬小屋はそれよりも一歩構成の程度を高めただけで、指導の目的は大體「クダモノカゴ」と同様である。

きびがらで作る犬は前に作った「ドッグツ」の應用である。只此所では犬小屋に釣合ふ大きさや形にすることに主眼をおいて指導する。

本教材では犬小屋の全形の作り方は模作的表現をさせ、犬小屋の入口・屋根・羽目板等の現はし方、犬の作り方等は思想的表現をさせる。

**準 備 工 具** 唐紙・ものさし

**材 料** 1cm 目の畫用紙程度の厚さの方眼紙・クレヨン・鉛筆・糊・糊下紙・きびがら・きびがらの皮又はひと

**指 導** 1 教科書の本圖は犬小屋の展開圖と出來上り、犬の作例を示したものである。参考圖は犬小屋の展開圖の別法と、出來上りとを示したものである。参考圖に示した方法は工作がやや困難であるから教師が作つて見せ、展開圖の畫き方にはいろいろあることを知らせる程度に止めておく。

2 犬小屋の展開圖を畫くには、1cm 目の方眼紙に上邊になる部分の目を5・10・5と數へて點を打ち、次に左邊に5・5・5・5と數へて點を打ち、次に下邊を上邊同様に、右邊を左邊同様に目を數へて點を打ち、相對する邊の點と點とを結ぶ線をものさしを定木として引く。教科書の本圖には展開圖と出來上りとの關係を明示するために、入口になる部分の展開圖も畫いてあるが、かくすることは作圖がやや複雑になるから兒童に實際製作させる場合は形を組立ててから入口を切抜かせる。従つて入口の部分の展開圖は畫かなくてよい。

3 展開圖が出來たら、先づ外側の餘分の所を切落し、右方に實線で示してある部分を切り、左方にも右方同様の切込みをつける。展開圖や切込みは一應點檢する要がある。

4 圖に點線で示す部分に折目をつけ一應家の形に組立てて見てから、再び開いて屋根・羽目板等を鉛筆・クレヨン等で任意に畫かせる。此の時代代になる部分にはクレヨンを塗らないやう注意する。

5 糊代に糊をつけて組立ててから、入口の形を考へて切らせる。

6 小屋の形や大きさに釣合ふやうな犬を、きびがらで任意に作らせて添へる。

**備 考** 1 思想的表現をさせる部分は、なるべく兒童の創意を働かせ、教科書に示した圖にとらはれることなく自分で工夫して作るやうにさせる。

2 點と點とを結ぶ直線を引く仕事の如きは、簡単なやうでも兒童にはなかなか出來ないものであるから、個別的に十分なる示範をして要領を會得させるやう力める。

**要 旨** 色紙を切抜いて模様を作らせ、對稱形の作り方、配色等の練習をさせ、圖案の趣味を養ふ。

本學年に於ける圖案教材としては、實物を並べることによつて主として排列の練習をさせる「ハナヲナラベル」「ハヲナラベル」があり、三角四角に切つた色紙を並べることによつて排列と配色との練習をさせる「サンカクシカクナラベ」があり、主として配色の練習をさせる「ゴバンメヌリ」があつたが、本教材は之等諸教材で學んだことを基礎とし、自由な形態によつて更に進んだ排列配色の練習をさせ、色紙を正しく折り、その上に畫いた圖形を切抜いて對稱形を作ることを知らせ、圖案の一要素である均齊に就いての初歩的な取扱ひをする。

**準 備 工 具** 唐鈔

材料 各種の色紙・臺紙用の畫用紙又は羅紗紙・糊・糊下紙・鉛筆

その他 色彩指導用掛圖・參考作品

**指 導** 1 教科書本圖の右半にある四圖は綠青と紫赤との正方形の色紙で作つた切抜模様で、紫赤の色紙を二つ折りにし、その上に圖案化した花と葉との形を鉛筆で畫き、それを切抜き、半分に綠青の色紙を貼つた臺紙上に貼つて作つたものである。本圖左半の四圖は黄と緑との正方形の色紙で作つた切抜模様で、緑の小正方形二つづつを市松模様風に貼つた臺紙の上に、黄の色紙を四つ折りにしその上に圖案

化した葉の形を畫き、それを切抜いたものを貼つて作つたものである。

2 參考圖右側の三圖は二つ折りにした色紙から作つた魚の模様、中の三圖は對角線の方に八つ折りにした色紙から作つた花の模様である。左側の三圖は屏風のやうに折疊んだ色紙の上に蝶の半分の形を畫き、それを切抜いて、半分に暗い色紙を貼つた臺紙の上に貼つて作つたものである。濃淡が三段になつてゐるのは、暗い臺紙の色がすいて見える所があるからである。

3 教科書の本圖參考圖に就いて切抜模様の作り方を説明し、折疊んだ紙を切抜いて模様を作れば左右又は上下左右が向き合つた形（對稱形）のものが出来ることを知らせる。

4 模様には色どり（配色）が大切であることを教科書、色彩指導用掛圖「イロツ3」、其の他の參考品によつて具體的に指導し、自分でいろいろ考へて試みさせる。

5 折疊んだ紙を一度に切抜く時は、下の方がずれて不正確になり易いから、左手でしつかり持つて紙の折目でない方から切り始め、折目のある方を後に切るやうにする。臺紙に貼る時は色紙の方に糊をつけて貼り、貼つた上から別の紙を當てて押へて貼りつける。直接手で撫でるときたなくなる。

6 各自に好きな色の紙で、好きな模様を工夫して作らせる。模様は一つか二つ作らせればよい。

**備 考** 1 色紙を折疊んで模様を切抜く時、外側の紙も完全な形に残して切ることは、圖形によつては困難であるから、さう言ふ場合は内側の模様だけを生かすやうに、何箇所からも缺を入れて切つてよい。

2 葉・花・魚の如き自然物の模様でなく、單なる抽象的の切抜模様を作らせてもよい。

**要 旨** 家庭の團樂又は家族の人々が楽しく仕事をしてゐる様を畫かせて人物描寫の練習をさせ、家を受する精神を養ふ。

本教材では「センセイ」の如き靜的人物の描寫と、「ウンドクツイ」の如き動的人物の描寫との中間に位する稍々動的な人物を描寫することになる。又これ迄の人物描寫の教材は立つてゐる姿勢のものが主であつたが、本教材では坐つてゐる姿勢のものも出て來るであらう。尙、年齢的に見ても老幼様々な人物を畫くことになる。人物描寫の練習としては靜動、立坐、老幼様々な場合の種々の人物を描寫させることによつて漸次修練を積んで行く必要がある。家族の人々は兒童の最も親しく日常見馴れてゐるもので、その特徴もよく記憶してゐるのであるから、畫き易くもあり興味も深い。又それを畫くことによつて家を受する心も深められて行くのである。

おうちの人を扱つた教材として、粘土による立體表現をさせた「オウチノヒト」がある。之と關聯を保つて指導することは勿論であるが、兩者は表現形式に立體平面の差があるばかりでなく、彼はおうちの人を個々の人物として扱つたのであるが、本教材は數人の家族を關係的に扱ひ、家族的雰圍氣を表現させるところに大きな差がある。

想の誘導、家族的雰圍氣の把握のために「ヨイコドモ」の「私ノウチ」と連絡をする。

**準 備** クレヨン・鉛筆・畫用紙

**指 導** 1 教科書の本圖は冬の日お父さんや兄さんは外へ働きに出て、おうちにはお祖母さん、お母さんと子供達が、楽しく睦まじく爐を囲んで家を守つてゐる様を畫いたものである。人物の配置や現はし方、平和な雰圍氣等を味はせるがよい。尙、此の圖には背景などを畫いてないが、兒童に畫かせるものは、床・壁・戸障子・家具類等を畫かせるもよい。

2 参考圖はお母さんが粉をひいてゐるところと、お兄さんが繩を縛つてゐるところを示したもので一枚の繪としてまとめてゐるものではない。兒童に畫かせるのは、人物を個別的に畫かせるのではなく、家族數人を關係的に畫かせるのである。

3 表現は一家團樂・一家協力の生活場面、例へば家族一同で朝の支度や掃除をしてゐるところ、子供は勉強大人は仕事をしてゐるところ、食事のどろ、爐や火鉢を囲んで皆で話をしてゐるところ、食後の一時を皆でラジオを聞いてゐるところ等を、教科書を参考として「ヨイコドモ」の教材とも關聯を保ち、都會・農山漁村それぞれの情況や兒童各自の家庭の實情に即して、どんな場面を畫くかを考へさせてから畫かせる。

**備 考** 1 本教材は題目を豫告してよく觀察させて置くもよい。

2 なるべく多數の家族を關係的に畫かせたいが、必ずしも全家族を畫かなければならないとは限らない。又よくその家へ來る近所の人や、家畜等を交へて畫くもよい。



要旨 節分追儺の行事に因んで福と鬼との面を作らせ、遊戯的な仕事を通して表現力を養ふ。

節分の行事には種々あるが、福は内鬼は外と呼んで豆をまくことは、古くから社寺や一般家庭に行はれて来たことである。此の行事に因んで福や鬼の面を作らせそれをかぶつて遊ばせることによつて、此の行事を一層楽しいものにしようとするのである。

本教材は次の「マメマキ」と一體不離の關聯を保つて指導する。

本教材は切つた色紙を貼つて表現する點から見て「オモチヤ」などと技法上關聯を有するものであるが、單に切つた色紙を臺紙上に貼つて諸種のもを表現するのと、實際にかぶれる面を作るのとでは、製作の興味も大變ちがふし、表現上に於いてもかぶれるやうにするには、大きさも考へなければならず、工合よくかぶれて眼玉の孔から見えるやうにもしなければならず、其の他種々の工夫を要する點が少なく、工夫力や表現力を養ふ上から見て、單なる貼紙よりは一歩進んだものである。

本教材は二時限に福と鬼との二つを作らせるのであるが、場合によつては一方だけを丁寧に作らせてもよい。

準備工具 唐鈔・眼の孔をあける打扱

材料 畫川紙・色紙・糊・糊下紙・紐・鉛筆・クレヨン等

指導 1 教科書の本圖は畫川紙の上に色紙を貼つて作つた福と鬼との面で、耳へかけて實際にかぶれるやうに紐をつけて作つたものを、鼠の臺紙上に置いたものである。本教材は色紙を貼つて作るのが本體ではあるが、兒童に作らせる場合は細かい部分はクレヨンや鉛筆で畫いて表現させてよい。

2 參考圖は童話劇に用ひる兎・狐・猿・狸・犬の面である。此の中、上の三つはすつかりかぶつて面の眼玉の孔から見えるやうにするのであるが、下の二つは面は額の所にかぶり、面の下から見るやうにするのである。

3 教科書を見せ、面の作り方に就いて先づ自分でかぶるにはどの位の大きさにしたらよいかを考へ、教科書にある通りでなく形も色も自分で考へてから、赤鬼なら赤か橙、青鬼なら青か綠青かの色紙を面の大きさの全體に貼り、それから漸次髪・角・眼・鼻・口などを色紙を貼り重ねて作つたり、細かい部分はクレヨンや鉛筆などで畫いたりして現はし、終りに外側を切抜き、眼玉の孔をあけ、耳にかける紐をつけて作るのであること、福の作り方も大體同様であることを知らせ、各自任意に工夫して作らせる。

備考 1 なるべく兒童が工夫して作る部分を多くし、單なる教科書の模倣にならぬやうにする。

2 豆まきの説話が迷信的にならぬやう注意し、愉快な行事として扱ふことに留意する。

3 紙の切方・貼方はこれ迄にしばしば練習して来たことではあるが、本教材では比較的廣い面積の色紙や細い色紙を切つたり貼つたりしなければならぬ部分があるから、特にそれ等の點に注意して指導する。

**要旨** 家庭に於ける豆まきの情景を畫かせて、人物描寫の練習をさせ、年中行事に對する親しみを深める。

本教材は節分追難の行事を扱ふ點に於いては、前教材「オメン」と一體をなす教材であり、家庭に於ける人物を中心とした取扱ひをする點に於いては前々教材「オウチノ人タチ」と同じ狙ひを有するものである。只前々教材と異なる點は、特殊な行事を扱ふものであるから、家の人達を表現すると言ふ氣持が表面には現はれないで、その行事によつて醸し出される氣持を表現しようとするのが主となり、人物の描寫は動的のものとなる等、本教材には又独自の境地がある。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙

**指導** 1 教科書の本圖はお父さんが塀に入れた炒豆を福は内鬼は外と呼び乍まくのを、子供等が拾つてゐるところを畫いたものである。豆まきは多く夜行はれるのであるから、此の圖には夜の氣分は現はしてないけれども、兒童に畫かせる場合は夜の氣持を出させるもよい。そのためには鼠などの適當な色のある紙に畫かせてもよい。

2 参考圖はお母さん、兄さん、お祖母さん等が豆を拾つてゐる姿態を示したもので、一つのまとまつた畫面を構成してゐるものではない。併し楽しさうに豆を拾つてゐる氣分は出てゐる。

3 各家庭の豆まきに於ける豆をまく人、拾ふ人の様々な様子や、室内其の他豆をまく周囲の情景を想

ひ出させ、教科書を見せて自分の家の豆まきとの異同に就いて問答し、各自に自分の家の豆まきの情景を畫かせる。

4 各人物の描寫に注意させると共に、人物と人物との關係、全體としての愉快な氣分の表現等にも、兒童の程度相應の注意をさせる。

**備考** 1 豆まきは地方によつては行はない所もあり、又行はない家庭もあらうが、さう言ふ場合には便宜炒豆を喰べてゐるところとか、門に移の枝を挿してゐる所とか、節分の他の行事を畫かせてもよい。又自分の家では行はないが、近所の家で行ふ所や、近所の社寺で行ふ所を見たものは、それを畫かせてもよい。

2 節分の行事は何れも除疫・辨禍招福を意味するものであるが、民間に行はれてゐる行事の中には附會に過ぎないと思はれるやうなこともあるから、兒童にはあまり深くその意味などを説明しないで、只愉快な年中行事として扱ふ程度に止めて置くがよい。

**要 旨** 方眼紙を用ひて机と腰掛とを作らせ、立體構成の練習をなし工夫考案の力を養ふ。

方眼紙を用ひて展開圖を畫き、それを組立てて立體を構成することは「クダモノカゴ」「犬ト犬ゴヤ」で既に學んで來て、本教材は第三回目のものである。従つて本教材は形の構成に於いても單なる模作的表現をさせるだけでなく、大體の工作方法を示してから形や大きさなどを兒童に工夫させて作らせるのである。かかる要求は一見兒童の程度を越したもののやうに考へられるかも知れないが、指導方法宜しきかなへば、兒童等は案外面白い着想や工夫をするものである。尙、部分的の形狀や裝飾等にもなるべく創意を働かせるやう指導する。

**準 備 工 具** 唐鉢・ものさし

**材 料** 1cm 目の中厚紙の方眼紙・鉛筆・クレヨン又は色紙・糊・糊下紙

**其 他** 机腰掛の出來上り標本・エノホン掛圖・其の他の參考品

**指 導** 1 教科書の本圖は机と腰掛との展開圖を示したもので、參考圖はその出來上りを示したものである。机や腰掛の展開圖を連続した形に畫いて作ることは、此の程度の兒童には困難であるから、机はわらいた甲板・脚を、腰掛は座・脚・もたれを別々に作つて、あとで組合せて作るのである。

2 エノホン掛圖は工夫考案の參考として、机・腰掛の實物の寫眞を示したものである。

3 教科書に示す如き机を作るには、先づ甲板の展開圖を畫き、實線で示す部分を切所し、點線で示す部分を折曲げ、糊代に糊をつけて箱狀のものに作り、次に脚の展開圖を畫き、切所・折曲げの工作をなし、箱狀に作つた甲板に外側から貼りつける。之を内側から貼ると工作がやや困難になる。腰掛は座と脚とを机の工作に準じて作り、あとでもたれを作つて貼りつける。机も腰掛もクレヨンを塗つたり、色紙を貼つたりして仕上げる場合は、組立てる前に塗つたり貼つたりして置くがよい。

4 實際に兒童に作らせる場合は、要旨にもある如く教科書にある通りに作らせるのではなく、机の甲板を正方形にするとか他の形の矩形にするとか、机の後又は後と左右とを圍つたものにするとか、甲板の高さを高くしたり脚の幅を廣くしてそこに抽斗の形を畫いて現はすなり貼つて現はすなりしたり、色や裝飾を工夫したり、腰掛のもたれの形を變へたり、もたれのない腰掛を作つたりするとか種々工夫して任意な形や色や裝飾のものを作らせるのである。そのためにはエノホン掛圖、机腰掛の實物、其の他の參考品を示したり、暗示を與へたりする要がある。

5 展開圖は教科書には解り易くするために離して畫いてあるが、實際には方眼紙の端から各部分を密接させて畫き紙の經濟をはかる。脚などは方眼紙の切端などで一本づつ作つてもよい。

**備 考** 兒童の創意を働かせ工夫して作らせる時は、工作の方法がまはりくどくなつたり、變則的になつたりすることがあり、又出來上りの結果も技術的に見て不十分なことが少くないが、之は或程度已むを得ない。その代りとして着想の面白さや、工作の過程及び結果に於いて工夫した跡が現はれて居ればよい。

**要旨** 人形を寫生させて、觀察力と表現力とを養ふ。

雛祭が近くなり、どこの玩具店でも雛人形や普通の人形などの特別賣出しが行はれ、各家庭でも雛人形の飾りつけが爲される季節になつた。本教材はこの行事に因んで選んだのであるが、形や色のあまり繊細複雑な雛人形は寫生には適しないから、單純でしかも面白い普通の人形を寫生させるのである。

兒童はこれ迄に數回寫生の經驗を経て來たのであるから、實物を示して之を見て畫くのであると言へば、寫生するのであると言ふことは解ると思ふ。併し寫生の方法態度はまだなかなか出來てゐないであらう。そこで人形の如き物それ自身兒童に興味を持たれ、しかも寫生材料として手頃なものによつて、繰返へし物の見方その畫き現はし方等の練習をさせ、修練の歩を進ませるのである。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙・寫生する人形・寫生臺

寫生する人形は、形や色の單純素朴なもので、しかも兒童に興味を持たれ、大きさもあまり小さくないものがよい。寫生する人形ほどの兒童にも同じものを畫かせなければならないことはないが、表現上の難易の程度は大體似通つたものでなければならない。又教科書には日本風の傳統的なものばかりを示してあるが、兒童に畫かせるのは現在市場に出て居る普通のものでよい。

**指導** 1 教科書の本圖は紙雛を畫いたものである。參考圖の左はこけし、右上と中右は嵯峨人形、中

は紙雛、右下は土の天神様を畫いたもので、參考圖の方は一枚のまとまつた繪として畫いたものではなく、參考として個々のものを寄せ集めて畫いたものである。

2 人形を教室内の、兒童からよく見える位置數箇所に置く。人形を置く寫生臺の高さは兒童机の高さより幾分低目のものがよいが、普通教室で指導する場合は便宜兒童机の上に置くもよいであらう。又人形と兒童との距離は、1mから2m内外が適當で、自分の机の上にあるものや、あまり離れた所にあるものは不適當である。

3 教科書を見せて人形や机の現はし方に注意させ、實物を觀察させて頭・胴・手・足の形や大體の釣合ひ等に注意させ、畫面のどの邊に、どの位の大きさに畫いたらよいかを考へさせてから畫かせる。描寫中も絶えず實物を見乍ら形や色に注意して畫くやうにさせる。

**備考** 1 鑑賞指導用掛圖の治郎左衛門雛を本教材指導の前後に教室に掲げて置く。

2 背景は兒童が畫いたならば止めさせる要はない。併し無意味な強い色を一種の型のやうにして塗ることは、後に種々の弊害が生じてよくない。

## 23 兵タイサン

思想的表現 一時限

**要旨** 陸軍記念日に關聯して兵士を畫かせ、人物描寫の練習をさせ、陸軍に對する關心を持たせる。

本教材は「スキヘイサン」と對應してゐる教材である。之を人物描寫の見地から見る時は、「ウンドウクワイ」「オウチノ人タチ」「マメマキ」等が多數の人を關係的に扱ふに反し、之は少數の人を兒童に可能な範圍内に於いて確實に描寫させるものである。

本教材は單なる抽象的人物でなく、なるべく實在の人物を思ひ出して畫させる。そして單なる肖像畫的描寫でなく、兵隊が何か動作をしてゐるところを畫くやう指導する。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙・エノホン掛圖

**指導** 1 教科書の本圖は武裝した兵士が立つてゐるところを畫いたものである。参考圖は馬に乗つてゐる兵士を畫いたものである。エノホン掛圖に示したのは陸海軍の將校と下士との寫眞である。

2 自分の家の人や隣近所の人で兵隊に行つてゐる人、又はどこかで會つたことのある兵隊さんを思ひ出させ、その服裝裝備に就いて教科書及びエノホン掛圖とも對照して、帽子・上衣・袴・脚絆・銃・劍・背囊等の形狀色彩の觀念を明かにし、なるべく兒童各自の知つてゐる實在の兵隊さんが何か活動してゐるところをとらへて畫させる。

3 兵・下士官・將校何れを畫かせてもよい。そして一人畫かせればよいが、二人三人を畫いてもよい。

尙、環境を畫くこともよい。

**備考** 1 本教材は三月の初めに配當されてゐるから、陸軍記念日の前に指導することになる。

2 繪本・雜誌等に畫いてあつた兵隊さんを思ひ出して畫くのではなく、ほん物の兵隊さんを思ひ出して畫くやうにさせる。

3 兵の服裝裝備(軍裝)各部の名稱は下圖の通りである。

- |          |                |
|----------|----------------|
| 1. 鐵 帽   | 7. 彈 入         |
| 2. 襟 章   | 8. 卷 脚 絆       |
| 3. 背 囊   | 9. 軍 靴(編上靴)    |
| 4. 水 筒   | 10. 歩 兵 銃(三八式) |
| 5. 雜 囊   | 11. 銃 劍(三十年式)  |
| 6. 防 毒 面 |                |



**要旨** 方眼紙を用ひて模型滑空機を作らせ、構成力を養ひ、國防思想の涵養に資する。

飛行機と滑空機とは異なるものであり、是等を合せて航空機と言ふのであるが、低學年では兒童用語に従ひ飛行機・滑空機共「ヒカウキ」なる名稱中に含ませて扱ひ、學年が進んでから兩者の別を知らせることにした。

航空機は現代兵器として或は交通機關として最も重要な使命を有することは言ふ迄もない。兒童に模型航空機を作らせて、航空への關心を持たせ、航空に関する知識を體得させることは、科學や機械に對する常識を與へ、製作技術の修練を積ませ、國防思想を涵養する上から見て、極めて大切なことである。本教材はその第一歩としての指導をするのである。

**準備** 工具 唐鋏・ものさし・日の丸を打抜く打抜

材料 1cm 目の中厚紙の方眼紙・きびがらの皮・赤い色紙・糊・糊下紙

その他 出来上り標本

**指導** 1 教科書の本圖は出来上つた飛行機とその飛ばし方を示したもので、参考圖は展開圖を示したものである。

2 圖に示した飛行機を作るには、1cm 目の質のかたい中厚紙の方眼紙を用ひ、参考圖の圖1に示す如

く、胴體つばさ（主翼）横の尾（水平尾翼）のくつついた形の展開圖を畫き、之を切抜き、點線の所から折曲げる。次に参考圖の2に示す如き、胴體の長さと同じ長さの細いきびがらの皮を、胴體の折目の底の所に糊で貼りつける。此の時胴體の紙を貼合せないやう注意する。

次に縦の尾（垂直尾翼）を圖4の如く作り、之を胴體の後方に貼る。

次に圖3に示す如き形の紙多數を作り、之を二つ折りにしたものを貼り合せて胴體の先端に貼りつけ重さのつりあふところ（重心）がつばさの前縁からつばさの奥行（翼弦長）の三分の一の點に来るやうにする。次に圖5に示す大きさの紙を作つて左右のつばさに渡して貼り適當の上反角をつけると共に補強とする。この時胴體の上邊をやや開いて斷面が三角形になるやうにする。

赤い色紙で日の丸を打ち抜き、つばさ・縦の尾等に貼る。出来たら形にひづみがないか、各部がしつかり出来てゐるか等を調べてから飛ばして見る。飛ばした結果更に修正を加へてより完全なものにする。

3 飛ばし方は胴體の下部を持つて水平か、やや下向きに胴體の方向に送り出す。あまり力を入れて投げたり、上向きに送り出すとかへつてよく飛ばない。

**備考** 1 各部の展開圖を印刷して與へて作らせてもよい。

2 抽象的な航空理論的な説明をしないで、具體的にどうすればよく飛ぶかを知らせ、經驗をさせる。

3 只作るだけでなく、自分で作つたものを飛ばして遊ばせることにも重要な教育的意義を見出さなければならぬ。

25 ヒカウキノ モヤウ 圖案的表现 一時限

**要旨** 飛行機の模様を畫かせて、描寫による圖案構成の初歩的な練習をさせる。

本學年に於ける圖案的表现教材は、主として貨物・色紙等を用ひて構成させるものであり、描寫によるものとしては「ゴパン目ヌリ」があつたが、之はやや特殊なもので普通の意味に於ける描寫による圖案的表现教材は本教材が初めてのものである。

圖案表现の方法には種々あるが、一般的には描寫による表現が最も廣く行はれてゐる。本教材は此の最も普通に行はれてゐる描寫による圖案構成の初歩の練習をさせるためのものである。

飛行機は兒童に興味ある材料であり、前教材でその模型も作つて形に對する觀念も明かになつて居り、又圖案資料としても扱ひ易いものであるから、之を資料として選んだのである。

圖案構成の形式は教科書には單獨模様ばかりを示して置いたが、エノホン掛圖に示したやうに二方連続模様や四方連続模様を畫かせてもよい。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙・エノホン掛圖・色彩指導用掛圖・その他參考品

**指導** 1 教科書の本圖は二機の飛行機が煙幕を張つてゐるところを單獨模様にしたものである。空の青・飛行機の黄・煙幕の鼠・それ等の色を引きしめる目の丸の赤等の配色の美しさや、飛行機と煙幕とを渦線狀に排列した動的な構成等を味はせるがよい。

2 參考圖は二機共飛行機を資料とした單獨模様である。單純な放射狀排列や求心的な排列にしなかつた所に工夫がある。兒童には此所まで来る以前のもつと單純なものを參考品などで示すもよい。

3 エノホン掛圖に示したものは同じく飛行機を資料とした單獨模様、二方連続模様、四方連続模様を兒童の程度に應じて表現したものである。

4 飛行機を上又は下から見た形、横から見た形等の觀念を明かにし、之を圖案化して、中心から四方に向つて並べたり、中心に向つて並べたり、或はこの兩者を組合せた並べ方をしたり、又横や縦の二方に連続させて並べたり、四方に連続させて並べたり、或はもつと自由に並べたりして模様を作ることを、教科書・エノホン掛圖・其の他の參考品等によつて具體的に知らせる。

5 如何なる形の飛行機を、如何に排列するか、配色は如何にするかを考へさせてから、任意に畫かせる。

**備考** 1 飛行機は簡略に畫いたものならばあまり圖案化しなくてもそのまま圖案に用ひることが出来るから、圖案化に就いてはあまり立入つた指導はしなくてもよい。

2 前教材で作つた模型飛行機を資料として畫かせてもよい。

要旨 りんごを寫生させて、球形に屬するものの畫き方の練習をさせる。

本學年に於ける寫生的表現教材として、人物・風景・草花・人形等を寫生して來、球形に屬するものとして提灯を寫生して來たのである。而して最後にりんごを寫生させることは、一見甚だ簡單なものが後に出て來たやうにも見えるが、之には理由がある。これ迄にもしばしば述べた通り、低學年に於ける寫生的表現は、その過程結果から見て思想的表現と相距ることの遠くないものとなるが、之を自然の成行きのままにして置いたのでは、なかなかほんたうの寫生が出来るやうにはならないから、徐々に物の見方・捉へ方・現はし方などの訓練をして行かなければならない。それには常に一本調子な指導ばかりするよりも、風景や草花のやうな兒童に興味の多い複雑なものを畫かせて見たり、又りんごの如き比較的簡單なものを寫生させて、やや突込んだ物の見方や現はし方の指導をしたりする要がある。かかる意味で本教材を採用したのである。

地方によつてりんごの得難い場合は、便宜球形をした他の果物を畫かせてもよい。

準備 クレヨン・費川紙・寫生するりんご又は他の果物・寫生壺

指導 1 教科書の本圖は二箇のりんごを寫生したものである。これは初め鼠色のクレヨンで輪廓を畫き、赤・黄其の他の色で畫き上げたものである。参考圖の左上は別の種類のりんご、右上は三寶柑、下

は蜜柑を畫いたものである。

2 りんご二箇又は三箇を組合せたものを、教室内數箇所に置き、りんごは大體丸い形をしてゐるが、よく見るとまん丸ではなく少しびつになつてゐること、表面がすべすべして光澤があること、色は大體赤いがよく見るといろいろな色をしてゐるところのあること、其の他軸のついてゐるところの窪み、その反對側の窪み、軸のつき方等に就いて觀察させ、教科書の作例との異同を明かにし、寫生する順序や、紙のどの邊にどの位の大きさに畫いたらよいかを考へさせてから、寫生させる。

3 りんごの置いてある机の面や背景を畫かせてもよい。

備考 1 兒童は最初に畫くりんごを紙のまん中に畫き、次に畫くものをそれに添へて行くため、かたよつた構圖になり勝ちであるから、筆を下す前に大體どの邊とどの邊とに畫いたらよいかを考へさせてから畫させる。

2 小さくいちけた表現をする兒童には、實物より少し大きく畫く位のつもりで畫かせるがよい。

3 赤いりんごの出盛るのは十月頃であるから、産地などでは教材の繰替へをして出盛り期に課してもよい。

1953 12

1953 12

輸入



k131,71-4-2

印刷所 共同印刷株式會社  
東京市小石川區久堅町百八番地

印刷者 大橋光吉  
東京市小石川區久堅町百八番地

著作權所有 發行著者 文部省

昭和十六年十一月七日發行  
昭和十六年十一月五日印刷  
(非賣品)

